

遍照山

第55号

平成29年
7月21日発行

住職からのお詫び

今年一月、大雪で、庫裏の屋根を折れました。まずは、皆様方に住職として深くお詫び申し上げます。

先人たちが、長き年月を守り通して来られた檀信徒の皆様のご共有財産である本堂、庫裏の一部分においてお預かりしているにもかかわらず、多大なる損害を与え、まずは元通りに直すことなく、長き日々放置してきたことに深く恥じています。幸いにも壇家である大村棟梁様のご奉仕、ご寄進により、もと通りの姿になりました。感謝申し上げます。

庫裏改修に伴う檀信徒説明会では、皆様の多くの声があったように、先ず原点到立ち返り、庫裏、客殿等々、家族全員、心ある人々たちの手助けにより、整理、片付けたいと思い、取り組んでおります。

またそのことが、宗教家、住職で有ることを自分自身問いかけています。

壇家の皆様方のご負担を限りなく軽く出来る方法が、その中から見えて来ると信じて、ご報告できる時が来ると思っています。

改めて皆様方に混乱を招きましたことに深く謝罪とお詫びを申し上げます。



お盆は心のやすらぎ

暑い夏とともにやってくるお盆は、私たちにとって、もつとも親しみやすい仏教行事です。ご先

祖様のお精霊さんをお迎えし、供養し、その冥福を家族みんなで祈る行事です。他の地域では精霊まつりとよばれる古式の伝統が残されているところもあります。

普段、離れて暮らす家族が顔を合わし、近況を報告したりして、家族団らんのひとつをおくるのが、お盆の行事であり、これからも親から子へ受け継がれていって欲しいものです。



お盆の予定

※混雑されることを予想して、今年、六日(日)より墓参りを始めます。

○南市、下の城、馬場、仁和寺、沖田、三田、下古賀、川島、新旭、今津、中央の檀信徒の方、

八月六日(日)〜十二日(土) お墓参り 午前五時半より午前十一時ごろ

○八月十三日(日) 午前五時半から六時半ごろ 佐賀区、午前六時半から七時半ごろ 上寺区

○八月十四日(月) 棚 経 参り※午前五時より午後八時になりますので、朝早い方、夕方以降になる方にはご理解ください。

○八月十五日(火) 午前五時より

盆礼のあいさつを受けます。

※持参品 米もしくは五百円、塔婆代二百円です。塔婆に水を捧げて、仏さまの供養をします。これについては、生きている私たちが餓鬼におちいることがないように、水とお香を薫じます。

○八月十五日午後一時半 盆施餓鬼法要

※有縁無縁の仏様の縁を結んで、家内安全と幸せを祈ります。

※初盆を迎える方々には施餓鬼法要をして、亡き方を供養して、家族・親族の平安を祈りますので、是非お参りください。

ルーツをたどる

故郷へ帰って、両親や祖父母にあたり、家族そろってお墓参りをするのがお盆の時期です。自分の生命は、両親、曾祖父母……と連綿と受け継がれてきました。十代遡ると千人あまり、二十代遡ると百万人以上のご先祖がいるといわれています。家系図を作ったり、祖父母から話を聞いたりして、わがルーツを知るとき、どれほど多くの人たちが自分と関わっていることに気づかせていただきます。目には見えないつながりの中で、支えながら生きていく事に感謝することがもつとも大切なことです。

慈悲の心

お釈迦様の十大弟子の一人に神通力第一の目蓮がおられました。ある日、亡くられたお母さんが今どうしておられるのか神通力でもって探しました。すると驚いたことに餓鬼道に落ちておられ、骨と皮に痩せ衰えた姿におられた。目連さまが、ご飯を食べさせようとしたが、ご飯が口に入らないうちに炎となつて燃え上がり食べる事が出来ません。そこで、お釈迦様に救いを求めました。お母さんは、自分の子だけにりっぱな僧侶にしようとお教へ育てました。子を思う深い愛欲に執着しすぎて、餓鬼道に落ちたのです。お釈迦様が、多くの僧侶に徳をたたえ、できうる限り飲食を施さない。修行僧たちは、先祖様や餓鬼道で苦しんでいる者のために喜んで供養してくれるでしょう。早速、目連は、多くの僧侶に供養を営みますと、一筋の光明がお母さんや餓鬼道で苦しんでいる人たちに照らし、極楽に導かれたのでした。お母さまが餓鬼道に落ちたのは、他人を押しつけて自分の願ひ通りの人になつてほしいと自分勝手な愛情です。これが慈悲の心。すなわち、損得を超えた無限の愛情でなければなりません。

びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、ご一報下さい。

真盛上人の臨終のとき

明応四年(一四九五年)の春、正月一五日の午前四時より四十八日の別時念仏会を開始した。道場は、伊賀の西蓮寺であった。一日三回説法をされた。すると、縁を結んだ僧侶と在家信者たちが集まり、別時念仏会に参加し、あるものは家を出て財産を捨て、夫妻親子の恩愛から別れて、教へに導かれた。二月三十日の早朝から、真盛上人は一層お苦しみになられた。真盛上人は、あらかじめ死期を知っておられたようだ。その日の正午に、「私は今日往生するだろう。みな心構えしておきなさい。」と言われた。人々はいよいよ力を落とし驚きがあった。午後五時になり、灯明を灯すべきだといわれたので、弟子がすぐに燭台に火をともした。真盛上人は、上人は今日必ず往生する。是非とも必ず心構えて、無欲清浄で念仏しなさい。欲を起せば、万事について不足するにあらう。と教へ戒められて近くの僧たちに先ず十念を授けられた。隔ての障子を開いた。すると僧尼たちは並び座っていた。上人はもう一度言われた。「私が往生するのは間違いない。是非とも必ずや無欲清浄にして十分に念仏しなさい。臨終の十念である」といって十念を授けて、鉦鼓をならして、声をそろえて念仏をなさい。とあって、称名念仏すること数百回にも及んだ。これが開祖真盛上人の臨終です。世寿五十三歳です。ほんと短い一生です。わが天台真盛宗は、念仏を唱える宗派でございます。しかも無欲で唱えることを教へられたのです。しかも鉦鼓をたたいて、ナムアマダブ、ナムアマダブ、ナムアマダブ、ナムアマダブ、ナムアマダブと数百回唱えると、ここら安らぐと真盛上人は説いています。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇―三七〇八―七二〇六

FAX (〇七七)五〇二―二二七九

Eメール svka37375@eto.eonet.ne.jp

新Eメール info@gyokusenji.com

ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をらん下で。